

問題発見技法 課題 2

【課題】

雑誌を 1 冊読んで、成功の秘訣・人生の教訓・アイデアを出すヒントなど役に立つヒントをピックアップし、一つにつき 1 枚の紙切れに記入する。KJ 法で A 型図解まで纏める。

【対象記事】

対象とする雑誌は「週刊東洋経済」や「アエラ」など。なお、「AERA」については、図書館オンライン DB の「聞蔵Ⅱ」から本文を閲覧可能、「図書館」「情報学部事務室」にも所蔵。「週刊東洋経済」は「図書館」「情報学部事務室」「国際学部事務室」で閲覧可。

【注意点】

紙切れを纏めるときは、トップダウンではなくボトムアップで行うこと。本当に似ている紙切れどうしであるものと考えて纏めていくこと。もっとも駄目なのは、紙切れ全体を観て纏めてしまうことなので注意（それはKJ法ではないので、課題達成とは認めない）。

PowerPoint で長方形の図形を用い、紙切れを作成。その中に文章を書く。

【レポートの書き方】

★ 用紙は A4 縦で 6 ページ。Word や PowerPoint 等で作成し、PDF に変換する。

1. 1 ページ目 【表紙】

用紙の上下左右真ん中に「科目名」およびそのすぐ下に「議題・議事テーマ」を書く。用紙の右下に「会議日（全て）」「グループ名」及び「参加メンバー全員の学籍番号・氏名」を一行ずつ書く

2. 2 ページ目 【Ⅰ. A 型図解 全体図】(PowerPoint1 枚目)

上に KJ 法で最終的に得られる（考えた）タイトル。大分類での関係を描く。

3. 3 ページ目以降 【Ⅱ. A 型図解 部分図】(PowerPoint2 枚目以降)

2 ページ目の大分類それぞれについて、PowerPoint で 1 ページずつを使い、中身を広げた関係図詳細を描く。（大分類の数だけ詳細図が必要。大分類が 3 つならば、PowerPoint のページは少なくとも 3 ページになる。一つの大分類の中身を全部出して、うまく 1 ページに収まらない場合は、中分類などの詳細図を別に作るなどして、工夫すること。）

4. 最終ページの前の 1 ページ 【Ⅲ. A 型図解の解説】

どのようにその図解が得られたのか。纏めた手順・方法など、A 型図解の解説を書く。

5. 最終ページ 【Ⅳ. 考察・結論】

今回の KJ 法で得られた知見をまとめて考察を書く。KJ 法を実施したことにより、どんな嬉しいことがわかったのか、今後の展開や将来展望、及び、議論で足りなかったこと、やれなかったこと、今後の課題についても書く。

【提出期限・提出先】

★ 提出期限：6 月 9 日（月）18:00 必着

★ 提出先：「public ¥jugyo ¥joho ¥経営情報学科 堀田 ¥08 問題発見技法 ¥課題 2」

★ 提出 PDF ファイル名：「08htf_rep2_group○.pdf」とする。○にはグループ名（例：α）を入れる。なお、期限内なら提出ファイルを何度上書き保存してもよい。